大きな栗の木と友だちに

東中央通 ツリークライミング体験会

専用のロープやサドル（安全保護具）を装着して木に登り、木や森、自然との一体感を味わう「ツリークライミング体験会」がこのほど、飯田市東中央通沿いの谷川公園東側の空き地にある高さ約20㍍の大きな栗の木（村松康尾さん所有）で行われた。子どもたちに自然の大切さや楽しさを肌で感じてもらおうと、東中央通小学校PTAとツリークライミングジャパンの共催で実施した。

昨年の夏、三日市場の飯田運動公園で開催したのに続いて2回目。町内の子どもたち15人と保護者が参加した。準備体操に続いて、1人ひとり本格的なヘルメットとサドルを装着。ツリークライミングジャパンスタッフの小木曽康二さんら4人が念入りに確認した。「まずは木とお友だちになろう」と小木曽さんが声を掛けると、子どもたちはみんなで木に抱きつき「よろしくお願いします」と栗の木に元気にあいさつした。

登り方の指導を受け、いよいよスタート。専用のロープを上手に使い、すいすいと登っていく子ども、途中でブランコのように遊んでいる子ども、高い枝に座り景色を眺めている子ども、どの子の目もみんな輝いていた。

樹上から下りてくると、子どもたちは口々に「また登ってみたい」。小木曽さんは「こうした体験を通じて、自然を大切にする心が育ってくれれば」と語った。父親の1人は「栗の木の隣には、梅の花が咲き始めており、春はもうすぐそこまで来ていると実感した」と子どもの成長を待ちわびていた。

ツリークライミングを体験する子どもたち